

中塚教授がまとめた冊子「騒がしい精子と卵子 子どもと話したい生殖医療」



## 生殖医療に関心持って

岡山大学院 中塚教授 冊子まとめる

生殖医療を取り巻く現状について関心を持つてもらおうと、岡山大学院保健学研究科の中塚幹也教授が冊子「騒がしい精子と卵子 子どもと話したい生殖医療」をまとめ、学校や関係する市民団体などに配布している。

冊子(A4判、71ページ)は、基礎知識▽最近の国内の動き▽凍結保存精子や卵子で生まれる子どもたち▽女性の年齢と生殖との関係▽全国の医療機関や一般市民への意識調査▽生殖医療と家族の形▽12章で構成。別章として法律や生命倫理分野の研究者が特別寄稿した。

感染症などインターネットを介した精子提供の危険性、第三者から精子の提供を受ける非配偶者間人工授精(AID)によって生まれた子どもへの告知や出自を知る権利などをテーマにしたコラムも掲載している。

2千冊作製。中塚教授は「妊娠に適した年齢があることや、最近の生殖医療に関するニュースなど子どもたちに伝えてほしいことをまとめた。話題にして話し合うきっかけとしてほしい」と話している。(伊丹友香)